

浦はつみ(ミツバチプロダクツ(株)代表取締役社長)、河野明(パナソニック(株)執行役員、アプライアンス社副社長)
春田真((株)BeeEdge代表取締役社長)、ダグラス・ウェバー(KAMAKIRI WORKSHOP(株)代表取締役社長)、
小山栄一((株)STUFF代表取締役社長)

概要

ミツバチプロダクツは、パナソニックのスチーム技術をベースに独自開発したホットチョコレート機器・サービスの、企画・製造・販売を行うスタートアップ。(業界初の方式で新たな食文化を提案。)パナソニックとスクラムベンチャーズ、INCJとの合弁会社BeeEdgeの支援プログラム第1号。

目的

「活用されない大企業の新規事業アイデア」、「重い大企業の組織風土」をスタートアップの設立で解決に導く。また、大企業内におけるチャレンジ文化の醸成に対する貢献などで我が国のイノベーション創出の新しい方法の先陣となる。

内容

市場規模が小さい等の理由でパナソニックで事業化しないと決定されたホットチョコレート事業アイデアをカーブアウト。独立したガバナンス体制で、他社連携も独自判断で実施し、短期間で量産まで実行できる体制を確立した。社外(当時)デザイナーのこだわりデザインを導入し、認知度の低い「チョコレートを飲む」食文化をパリのチョコレートの祭典でも提案するなど、事業展開中。

効果

大企業から事業アイデア、技術や人材をカーブアウトするスタートアップ支援企業 BeeEdgeの第1号プログラムとして、資金調達や事業戦略など他社との連携を効果的に実施する成長モデルを構築。新たな食文化に挑戦するスタートアップから、産業の活性化に寄与。



大企業での「お蔵入りする技術」や「チャレンジを諦める人材」の新しい活躍の場を提案。スタートアップ側の事業の核となる技術や人材、広報などを支援する中で、大企業側もチャレンジ文化が醸成。さらに単発ではなくBeeEdgeプログラムとして継続実施するためのモデルを確立。

図1. 全体スキームの概要図

図2. 事業化するマシン